

平成25年 第12回 教育委員会定例会議事録

招集日時 平成25年11月21日(水曜日) 午後4時開会/午後5時20分閉会
招集場所 加賀市役所別館3階 302会議室
出席委員 上田政憲、石橋雅之、酒谷百合子、畑中直子、旭直樹
会議列席者 掛山事務局長、宮永学校指導課長補佐、中矢次長兼九谷焼美術館副館長、梶谷教育庶務課長、西出生涯学習課長、谷口スポーツ課長、田嶋文化課長、矢嶋図書館長、柏田市政図書室長、米屋教育庶務課長補佐

上田委員長 平成25年第12回教育委員会定例会開会宣言

挨拶

議案第26号について説明をお願いします。

■ 議案第26号 平成25年度12月補正予算について

梶谷課長 谷口課長 資料に基づき説明

上田委員長 当初は詳しいところまでわからなかったんですけども、追加された資料で説明もございましたので、少しはわかったかなというふうに思っています。まずは最初の職員費について何かご質問ございませんか。

石橋委員 職員費について二人分ということですけども、二人分丸々で272万7千円ということだと思いますけど、年間で少なくとも135万円、この方達の労働時間と手当はいくらぐらいですか。非常に少ないような気がするのですが。

梶谷課長 こちらは事務補助員というかたちで、市の臨時職員規定で見えております。

石橋委員 労働時間は。

梶谷課長 7時間半です。午前8時30分から午後5時までです。

石橋委員 最低賃金を上回っていますね。わかりました。

上田委員長 当初は市で支払うつもりであったものが、県から出るようになったというその辺りの経緯は。

掛山局長 実は規定によると、県の方で事務員はつけていただけないというのが現実です。ただ、教育長の努力で県の方と交渉いただいて、事務員をつけていただいたということです。それがなければ、市で雇用するしかないということで、私どもの方でお金を準備していた。けども県の方でしっかりつけていただいたもので、その分の経費が浮いたということです。

上田委員長 わかりました。教育長さん、ありがとうございます。

梶谷課長 今年度は、今ほど言いましたように事務補助員として見ておりましたが、来年度は努力していただいているんですけど厳しいということで、普通の事務員というかたちで単価等は上げて要求するつもりです。まるきり手伝いではなくて、一人で事務をしなければならないということですので、それなりの単価にする予定であります。

上田委員長 ； これについて他に質問はありませんか。

旭教育長 ； 事務員なのですが、何とかここは県の方で予算を持ってきて、人員も配置して
； いただいていたんですけども、黒崎はこれで何年連続でつけていただいている
； んですか。

掛山局長 ； 私が来た時からずっとですから。

旭教育長 ； それに加えて菅谷についたんですよ。菅谷は完全複式になって今年で2年目です
； から、2年間予算をつけていただいている。不測の事態に立って絶えず予算を打
； っていないといけないと言っている。そして、この時期になったら使わなかつ
； たですからお返ししますということで、272万7千円を不用分として12月補正で出
； す。ただ、新たにまた来年度、当初予算に黒崎と菅谷の臨時職員の先生をつける。
； これは事務職ではないので、多市町の臨時職員はどのように雇っているのか色々
； 精査して、バランスのいいかたちでしたいと思います。これはまた来年度の当初
； 予算ですね。

上田委員長 ； それは少なくとも一部であっても、完全複式の解消という意味ではしてみたいで
； すね。

旭教育長 ； それは辛い部分があるんですけども、やらないといけないですね。

上田委員長 ； それでは、加賀温泉郷マラソンについて先ほど谷口課長から丁寧な説明がござい
； ましたが、これについてはいかがですか。

酒谷委員 ； ちょっといいですか。事業内容についての3番の雑入というのはどのようなもの
； なのでしょう。

谷口課長 ； 実は前回の繰り越しという部分もございまして。それが80万円なので、すごく増え
； たように見えますが、現実にはどこに入れたかわかりやすくするためにこれしか
； なかったと判断しました。

石橋委員 ； 先月もちょっとお聞きしましたが、資料に「加賀温泉郷マラソン大会の波及効果
； や実施方法を検証するため第2回大会の開催は見送る」ということが書いてござ
； います。では、もう1回確認したいんですけども、加賀温泉郷マラソンが市に与
； える波及効果とは一体何か。どういうことを想定してこのマラソン大会を開催し
； たのか、さらにはこの波及効果というものの検証というものはどのようにするおつ
； もりなのか、この2点をお聞きします。

谷口課長 ； まず、私どもは観光部局ではございませんので、本来なら運動のきっかけであつ
； たり、健康増進というのが本来の目的であると思います。ただ、ある意味で都市
； 間交流であつたり、いろんな情報発信であつたり、同じように効果があつたと思
； います。現実、私どもは葉書一枚程度でしたが、「宿泊されますか。」とか「どこ
； に宿泊されますか。」とか「どれくらい使いましたか。」とか、私どもなりに最低
； 限のお手紙を出しました。回収率は13%以上ございました。13%は少ないように
； 思いましたが、ある専門筋から見ると2桁いっているということでした。少しア
； ドバイスを受けて走ってみましたが、いろんな波及効果のやり方があって、私ど
； もは専門家じゃないのでわかりませんが、それなりにやってみると選手の総消費
； に関しては1億くらい。例えば県内での消費、いろんな指標があるみたいなんで

すね。それですと大体1億。あとは運営上の6,500万円を使うわけですから、設
営にかかる設営費であったり、諸々当然あるんです。ただ、全部が全部加賀市の
業者さんを使ったかと言うとそうではないんです。なので、一部だと考えれば、
ただ、詳細な資料に寄せているんですが、その6,500万円でいろんな業者がござ
います。それに対して計算するとかなりの額になっていると聞いています。ただ、
専門家ではないので、少なくとも3億くらいはあるのではないかと伺っておりま
す。もう一つですが、金額には表せないような効果があったと思っておりまし
て、こんなに赤を出して何を言っているのかと思われるかもしれませんが、やはり高
齢者の方が頑張って走っているのを見たり、ご夫婦や親子が一生懸命励ましあっ
て走っている姿に共感されたり、あとはボランティアの方ですね。山代中学校の
生徒がボランティアをしてくれて、お礼を言われて元気が出たとか、嬉しかった
という話もスクールソーシャルワーカーの方から聞いています。そういうことを
聞くと測れない部分もあったのかなと思いました。以上です。

掛山局長
谷口課長

検証はどのように。

検証でございますが、当然、ボランティアの方や地域の方の細部までの声も聞い
てございます。反省会は参加してくれた方であったり、推進員の方であったり、
体育協会であったり、そういった方々と反省会はしておりまして、それが十分じ
ゃない。まだまだ検証が足りないと思っております。これから時間をかけて検証
をして、またそういう可能性があればと思います。

上田委員長
旭教育長

はい、教育長。

この加賀温泉郷マラソンの目的といいますか、波及効果は大きく2つあります。1
つはまず観光目的。これはやっぱり今までの日本海マラソンよりも加賀温泉郷マ
ラソンにして、これは前・寺前市長のお考えでもあるんですけども、全国にアピ
ールするには加賀温泉郷マラソンでいく方がいいと、今まで日本海マラソンは人
のいないところ、車の通らないところ、看板の要らないところ、警備員の要らな
いところばかり走っていたんです。だから、市からの補助は300万円で、ボラン
ティアでやっていたんです。やろうと思ったらそちらでできるんですけども、あ
まりにもそういうボランティアの方々がやるにすれば、ランナーもそうですし寂
しい。一人で孤独に走って、田んぼの中でちゃんと応援はしているんですけども、
ただやればいいというのではないのではないかと私どもは考えました。そして市
長も加賀温泉郷マラソンでいこうとおっしゃる。もう1つの背景、2つ目ですけど
も、加賀市が山中と合併して、加賀市は一つであるという帰属意識を高める何か
大きなイベントが、合併後の加賀市にはなかったんです。今もこれを抜かすとほ
とんどないんです。だからこの加賀温泉郷を結ぶことによって、体育協会を始め、
いろんなボランティア団体があります。そういう方々を全部巻き込んで、裏方に
徹して市を挙げてこの加賀温泉郷を作り出すきっかけになる行事にしてはどう
かということで、帰属意識の醸成というものを狙いとして、そして山中も加賀市
も一つなんだよということを狙いにした。24日のふるさと駅伝ですか、山中をス
タートして大聖寺がゴールになると思いますが、これは片道切符の19市町それぞ

れの代表が走るやつですね。これも駅伝で非常にいいんですけども、地域の方々に聞くと、早い人たちがばかりで瞬きするうちに終わると言うんですね。特に山中なんかはすぐに終わってしまう。ところが、この加賀温泉郷マラソンというのは古総湯もある、片山津の街湯もある、山中の総湯もある、その間に早い者もいれば遅い者もいる。約2時間から3時間近く、どこから来たのと話しながら選手と地域住民の触れ合いの場にもなる。この辺はものすごく成功しているんです。アンケートをとっても、終わってからランナーとエイドステーションや古総湯、山中の総湯、片山津の街湯でお世話していた人達なんかが、こんないいわと言ってくれているんです。問題はなぜ検証して1回で中止したいかと申しますと、まず1つ目の観光目的のところですが、温泉郷と言いながら旅館の協力が今一つない。これをもっととりつけないといけなかったんですが、時期尚早であったのか、我々の準備不足であったのか、ランナーのアンケートを見ると旅館のバスですね。旅館の駐車場に車を置いて、山代なら古総湯に何時に集合して運んでもらえるというのを期待してきたと、ところが行ったら全然違う。自分の車に乗って、そこからシャトルバスで行かないといけない。だから旅館の協力が今一つだから十分でないという私どもの感覚ですが、これでは本当に観光目的になっていないんじゃないかということでした。それから帰属意識を醸成して裏方に徹する人も喜ぶようにとやったのですが、裏方に徹した人が猛烈に反対をして、当日は非常に寒かったんです。この影響もあつたのかなと思います。やっていられない。ボランティアでやっているにも関わらず、他市町から来た車やらを止めているんですね。いろんな渋滞が起こったもので、あるいは温泉目的で他県から来た人を止めると罵倒される。そういうのはもうやっていられないと、一応説明はしたんですけども、説明不足である。だからもう1回足踏みをして、この3温泉を結ぶ検証をもっとしないとけないということに至ったんですけども、一番問題なのは、1周コースを取りたかったのに、往復コースしか取れなかった。そうすると、スタートからゴールまで最も長い間、車を通行止めにしたといけない片山津から猛烈な反対があつた。ここを解消できない限り、なかなかこの加賀温泉郷マラソンは難しいのではないかと。そして最後に一つ言えることは、見通しが甘かった。私も自分自身反省していますが、他県でもこういうマラソンがあるんですけども、いっぱい全国でもやっていて、テレビで見るかっこいい要素ばかり頭に描いてしまうんですが、実際はそんな甘いものじゃない。だから京都府のマラソンでも金沢でも3年かけて準備していますが、億という単位で準備しているんです。金沢市に聞くと、まだやっていない段階から1年に5千万円ずつ積みながら向かおうとしている。これはあまりにも乱暴な、行き当たりばったりでやりすぎたという思いがします。継続しなかったら次できないんじゃないかという、ものすごい葛藤はありますけれども、強引にやればいいというものではないというところに来ておるので、局長は非常に苦しんでおられましたけども、1回足踏みをしようと、大変な浄財を使ってしまいましたけども、次に向かうために1回充電しないとけないのではないかと思います。

上田委員長
掛山局長

はい、掛山局長。
教育長は優しく語っていただいておりますけども、当初見込み1,700万円、これでだけでやるということで私どもは議会に報告をして進めてきたものを、蓋を開けて2,300万円足りませんでしたという話をするというのは、スタートしている部分もありますけども、事務としては大変恥ずかしいことなんです。ということは、その辺も私達は議会にしっかり説明をする責任があるので、仮にこのまま第2回をした時に、また同じようなことが起こると3回目は絶対にありません。それよりもしっかり立ち止まって検証して、課長が言いましたけども、どのようにして検証していくかは教育委員会事務局に与えられた大きな課題なんです。だからしっかり検証すべきなので、その辺はまた教育委員会でしっかり報告をさせていただきます。教育委員会としては、こういう方向でこの事業を進めていきたい。今回、議会で問われるのは、こんな状況でありながらなぜ募集を開始したのか。いろんな想定がされます。教育委員会として答えるしかないで、その辺は苦しいところはあるんですけども、教育委員の皆さんにはご理解をいただきたいと思っております。この原因は、あくまでもこの大会に大きな赤字を出した、それをどうしてもっと早く市当局と協議できなかったのかという部分が問題になっております。だからしっかり検証しなさいというのは、そういった意味もござ

上田委員長

委員の皆さん、何かありませんか。いろんな要素があったと思うんですけども、天候の悪さもありましたし、当然、見通しの甘さもあったんだろうと思うんですが、とりあえず赤字の大きさというのは大変なものである。それと同時に1回やって終わってしまうのも、ちょっと恥ずかしいことでもありますし、逆に2度目の失敗はできないのというのは、おっしゃった通りなので、その辺りをきちんと検証して、それを市民の皆さんに検証結果を公表すると同時に対策も含めてですね、そして理解を得ていくしかないんだろうと思います。こんなふうに思っています。その辺りをまた責任を果たしていかなければならないと思います。この件についてはよろしいでしょうか。では、議案第26号について承認される方は挙手をお願いいたします。

全委員

全員挙手

上田委員長

ありがとうございます。それでは、報告案件に参りたいと思います。報告第39号について、梶谷課長お願いします。

■ 報告第39号 教育委員会所管施設の指定管理者の募集について(専決事項)

梶谷課長 資料に基づき説明

上田委員長

これにつきまして質問はございますか。参考までに、体育施設の②について、具体的に施設名だけでもお願いできますか。はい、谷口課長。

谷口課長

まず、中央公園の施設がございます。プールは実はまだエイムの株式会社が継続し

ておりますので、プール以外のスポーツセンター、野球場、陸上競技場、テニスコート、相撲場ですね。山中ですが、山中健民体育館、弓道場、武道館、山中球場です。山中健民テニスコートに関しましては、3年ほど前から利用者がなく閉鎖しておりますので、最低限ということで外しております。あとはグラウンド関係ですね。A以外ですと、山中、動橋グラウンド、片山津グラウンドです。

上田委員長

ありがとうございます。はい、畑中委員。

畑中委員

その指定管理料というのは1年間ですか。それとも5年間ですか。

谷口課長

5年間です。

掛山局長

1年間です。

谷口課長

ごめんなさい、聞き取れませんでした。

上田委員長

この表に載っている指定管理料というのは何年分ですか。

谷口課長

1年分です。すみません、期間だと思いました。

石橋委員

委員長。

上田委員長

はい、石橋委員。

石橋委員

教育委員会所管に限らない話になると思うんですが、本来、行政でやるべきものを民間の力を活用し、指定管理料を支払うことによってそこを運営してもらい。そして住民に対し、あるいは利用者に対し、市民サービスの向上を図ってもらうというのが概ねの理由かと思うんですが、ずっと思っているんですが、指定管理料というのは年々減っていかないのですか。

西出課長

施設によって色々あると思うんですけども、プレゼンテーションを受けるわけなんですけども、年々減らしますというプレゼンもありますし、一定の料金でというのもありますし、それも参考に決めるんですけども、決まった後は一応そのプレゼンに近いように予算付けをいたしております。具体的に言いますと、文化会館は年間少しずつ下げたプレゼンをいただいているので、その額で予算付けをしています。

石橋委員

そのプレゼンというのは指定管理者に応募しておる方がプレゼンするんですね。

上田委員長

こちらからマイナスをかけるわけではないんですね。

西出課長

はい。

上田委員長

はい、谷口課長。

谷口課長

先ほど言いましたプールですね。西出課長が言いましたように、プレゼンで2年目は減らすようなかたちにできました。

上田委員長

では、それぐらいでよろしいでしょうか。報告第40号について説明お願いいたします。

■ 報告第40号 教育委員会懸案事項の市長協議結果について

梶谷課長 宮永補佐 旭教育長 西出課長

谷口課長 田嶋課長 中矢次長 資料に基づき説明

上田委員長

何かご質問がありましたらお願いいたします。

畑中委員

教育振興条例が大阪市に近いものとおっしゃいましたが、不勉強なのでよくわからないんですけど、どういう感じなんでしょうか。

掛山局長 教育振興に関する条例で、全国に類するものがあるのか色々と探してみたいです。大阪市と大阪府が、教育行政振興条例というものを作っておられました。中身は、例えば「教育委員会は～」と始まるものがよくあるんですけども、一度見てもらうといいんですけども、ここの条例は「市長と教育委員会は～」という文言で、「市長」という言葉が付いてくるんです。だから教育委員会のところに市長もかみまますよ、ということ。それは理念条例なんですけども、とにかく市長も教育の部分について一緒に振興しますよというような趣旨だと理解していただければと思います。また、次回の委員会で必要であればお持ちしますし、ネット等で見ていただいても結構です。大阪市と大阪府はそういうふうに、橋下市政の下にされています。

上田委員長 他にございませんか。一つだけちょっとお聞きしたいんですが、スポーツ課で出てきたスポーツ観光というのはどのようなものですか。

谷口課長 例えばですが、スポーツツーリズムやグリーンツーリズムとか、いわゆる観光一本ではなくてお迎えするんだという意味だと私は判断しております。今までスポーツでそういう部分はあまりございませんでしたが、お迎えして満足して帰っていただく。そうするとリピートが増えるという気がします。

上田委員長 スポーツに関するイベントを行って、ということですね。

谷口課長 そうしたら来た時に満足していただける。

上田委員長 他になければ、その他に進んでよろしいでしょうか。11月8日付人事異動について掛山局長お願いします。

■ その他(1) 11月8日付 人事異動について
掛山局長 資料に基づき説明

上田委員長 もうすでに異動されていますか。

掛山局長 勤務しております。

上田委員長 じゃあ事務局としては結構困っているんですね。

掛山局長 学校指導課も生涯学習課も予算要求で困っていて、すぐに補充してほしいとお願いをしているところです。

上田委員長 では、その他ございますか。

■ その他(2) 山中節物語の DVD について
西出課長 説明

上田委員長 この間見たものですか。

西出課長 声は入っていますので、無声じゃありません。

酒谷委員 いろんなところに置いてあるんですか。

西出課長 一応、今は学校や図書館等に配布済みでございます。

旭教育長 おうちでご家族で見てください。

上田委員長 それ以外はありませんか。

梶谷課長 連絡事項ですが、もう明日になるんですけども、議会が終わりました委員が決まりましたら、臨時会を開催いたします。審議事項等、書いてある通りでございます。よろしくお願いいたします。

上田委員長 では、第12回教育委員会定例会を終了します。今日は本当にご苦勞様でした。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。